

文題工事現場見学を終えて

氏名	2年	4組	7番
大宮祐輔			

僕は、今日の現場見学会で、離岸堤の工事を見学に行きました。現場で、離岸堤の役割、重要性を知ることができました。離岸堤とは、押し寄せてくる波の勢いを弱めたり、海岸の侵食を防ぐために置かれています。このドロップクがあることで、海が保たれた分、そこに住んでいる人が水害から守ることもできます。分かります。消防士のようには、直接、人の命を救うための仕事ではないかもしれませんが、災害を未然に防ぐことができたことは、とても大切な仕事だと思います。また、この離岸堤は、たかだか、クが積み重ねられていて、けではないことを初めて知り、積み重ねたドロップの下には、ケスファルトのマットが設置されていたり、大量の岩石が積み重ねられていたり、基礎の上に積み重ねられているドロップと、かかっていることがわかりました。そのための水や作業をする潜水士という仕事をさせている方もおられるそうです。そのような話を現場で聞くと、土木という分野は、とても幅が広いことがわかりました。供の中では、土木という分野は、道路をひいたり、トンネルを掘ったりと、交通網を整備する印象がありました。しかし、今日の現場見学で、海で仕事をしたり、土木の仕事が大切なものだと感じることができました。自分たちが安全に暮らせるのは、苦労して働いている人のおかげです。そして、この感謝を忘れないようにしたいです。そして、これから土木の仕事に就いて、社会を支えていかなければならないと思います。